

～メッセージ～  
みなみの風にのせて



## 特別支援学級と通常学級との交流

### 学校の現状

本校には、知的特別支援学級と自閉症・情緒特別支援学級が設置されています。どちらの学級に在籍する児童も特別支援学級だけではなく、学年の通常の学級に「交流学級」があります。朝の会はそこで参加しています。机、椅子等も特別支援学級と交流学級の両方に用意されています。

特別支援学級と交流学級との両方に居場所があり、それぞれの活動場所で児童が所属意識を持つことができる環境づくりに努めています。

### 交流及び共同学習の実際

特別支援学級の児童の中には、体験を通して学ぶとよく理解できるけれど、指示や説明を聞き取ったり、自分の考えを書いたりすることを苦手に行っている児童がいます。

理科の交流を例に考えてみます。理科は観察や実験など体験を大切にされた教科であり興味が持てるものといえます。しかし、交流する児童によっては、実験の結果を予想したり考察したことを文章で表現したりすることがむずかしいと思われる場合があります。そのような時には、理科本来の目標に加えて「多くの友達と一緒に活動することに慣れ見通しを持って活

動ができる」「説明を聞き取る力を高める」といった人と関わる力や集団の中で学習する力をつけることが大きな目標となっていくます。

児童によって、得意なことや興味のあることは違います。そのため、どの教科、どの時間を交流するかは一人ひとりによって違います。実態に応じて、双方を行き来することが当然であるという理解のもとに、より効果的な交流となるよう教科・内容を決めていきます。

通常学級の児童たちは、一緒に学習・活動することによって、その児童の苦手な場面がわかり、関わり方を考えるようになります。学級の中で本人と上手に関わることのできる児童が増えてきて、その輪が広がっていくようになります。交流・共同学習を行うことは、お互いの理解を深めることにつながっていくのです。

### 交流で、がんばったときの様子を紹介します

#### 音楽では

みんなと一緒に声を合わせて歌うことにより、コミュニケーションの力が高まりました。歌声の響きを聴くことによって、歌うことの楽しさを感じることができました。高学年では、二部合唱や合奏なども体験し、多くの人と曲を作りあげていく経験もしました。歌への興味、音楽への興味が広がっていきました。

#### 給食では

交流学級の友達と一緒に食べることで、嫌いだった物もがんばって食べました。友達が食べているところを見ることが、励ましの言葉かけなどがきっかけとなり食べることができました。